ハ4
2535
1

諸宗評判記

上

遠
1962
4

ハ4
2535
1-3
特

2535
1

八宗兼學

宗旨ハ好ム曰。太學。諸宗之秘書ニシテ而諸檀入ル觀ニ之門也。於テ今可キ見ニ好ム人爲ル評ヲ次第者。獨リ賴テ此篇之存スルニ而春盆次ノ之ニ好ム者必由リ是ニ而論ス焉則無ニ乎評ノ不レ差ハ矣

文耕堂

相州鎌倉中すぎ立役実悪女形と称立てゝ〜まして法華の
名悪まして女形を法華宗をたゝれて一ぱい立てく〜やら〜かゝる事一千八百
の親女和仏の〜ものを当一と思ひ〜
なるバ此新立ちまゝ入ひ相〜
そ〜らまるを出向奥よりのぞめば
ら〜い新向それ月ひかりあく
かりよ日か庵出天望と定をさ
けま〜と斗りたよりよ思ひ
下さまをまち〜

見有　日本國中　諸檀方中
評判　八宗九宗　悪徒中

▲立役之部

立役者氏

極上上吉　天台宗　庵主発

○元立花は地名小寺なるゆゑ
切と云義は伝授なしに新の富士

大上上吉　浄土宗　日蓮発

一代の立者いま日蓮公の東山

上上吉　禅宗　庵主発

上上吉　十三弥陀　真言宗　天竺産

上上吉　浦々迄　ぎおの仏法を弘め　拍行流　日本産

上上吉　日蓮宗　律宗　天竺産

上上　ぢたく　なる僧と地蔵と大振り　張西流　日本産

上上　一所を立んと行まゝ心とつくし　西山流　日本産

上上　薩摩　僧　日本産

上上　主仮巻軸　上上吉　摩厳宗　唐産

上上吉　黄檗宗　唐産

▲実悪之部

大上上吉　日蓮宗　日本産

上上吉　白服まゝ　山伏　日本産

上　念仏講　日本産

上　題目講　日本産

上　百万遍講　日本産

上　富士峰　日本武
上　木魚誕　日本武
上上　大峯峰　日本武

▲獻彼氏歌
上上士　自然を愛して隠遁を欲する人　日本武
上上　亡捨亡歌　日本武
上　道心者　日本武

▲乃木氏を歌
上上士　高いのなら貴族貴族はいらぬ中　沖和　日本武

上　菖蒲会仁　日本武

▲親仁氏を歌
上上士　ぢこくの外ばかりの陽光　木食　日本武

▲花車氏を歌
上　建立碑礼　日本武

▲若女氏を歌
世界の少年少女達よ　一向宗　日本武
上　カマキリ紅合風吹いて人家と殺海苔　吉田流　日本武

上上吉　尼寺　摩尼殿
去ぬるより　きつい三年ぬけ出る

上上　▲若流れて弟　唄比丘尼　日本殿
若信の帰宅　禅四弥　夜叉殿

上上　其ヲ下ル　天竺殿

上上　兄弟まい次　陳去不代　日本殿

上上　日蓮小信　日本殿

上上　▲数巻軸　一向円宗　日本殿

相上吉
法相宗　天竺殿
三論宗　天竺殿

上上吉　▲休之分
成実宗　天竺殿
元無きもの蓋付小面白とあれど
慧不ふ出ぬあのは

上上吉　俱舎宗　天竺殿
三井寺より宗の殿分にと引り
中に弟者の世話めーたらせ

こ角に
初茂の後神居さん〳〵夷殿
元四やもれく花と抱寝と後に
一夜遊びかて言るとあくさハ
二三ヶ月も遊ひ〳〵で〳〵すくの
指て名を姫〳〵むく出家の
恵方まいりもみいるひとのこ心地
よおかつてなる神宿でも秋は
例の初ろき秋のわぐみの有様さ
夜ふ出生ハ去れぬ〳〵てくるすら
ぬ〳〵もさくべ本のさるふ平を

いふ去ありつゝあべき意表なく
居ちんのかりもあられば人昼換
こゝくなゝと〳〵ひ〳〵契ゝて
るよだり深世をかゝ覚へし
初やゝたん男平正月二日京に
ひとりのの〳〵永さいのらひ食
だりをふて用ぐたひていのを
くゝぐ〳〵せあて今香小初言でも
又て〳〵ちぐ正月を女人と雪乗
を物ひき切物はあて万歳
去共心ゝなり灯燈をゝるよ

雪ふり門の戸を閉メ掛元書。
大いぶきわ〳〵しうちふれば。
嵐もおそれて知らぬやら思ふ。
床の置れとまりて有るやう西変
すハ皆人〳〵そつとひそりとびく
見まハ。喉搗の茶をおつ〳〵と
かゝ有ぐ〳〵。七人車座よ並べ居
て有られバ。ホのまそ〳〵〳〵
氏大坊我来へおゝ迎〳〵ことも
行を同者てよ入〳〵やり〳〵表の
お坊様と門ちびゝ〳〵ハ赤あ

行きと七よ初さあり七ハ兵ハ色
まゞ〳〵天徳ものやう〳〵〳〵
兄ハ七福神なり。兄ハ布袋
〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵
豈〳〵あつて夷丈宮よ小
大黒ハ初め。ゆりる人ゑぐら
福寿をさゞうう大仮あるよ。
布袋和尚弁仏法を伝ゞ教を
見ぬを上元生へ行脚を振られ
そつよるを吟ず。法丈の子供弁
集て弟子と云ちよぎゝなゝて

六人の娘ハ子細ハ知ぬ。若〳〵へ
そのいを取だ。身一撰人ふね頭よ
ぶ〳〵あてきい。主にゆつみもの
子供の口でる大勢のゆつゝ大人
ゝの二儀だうの系でハきが〳〵ら。
いづまもいで思ひすと云ゆ〳〵
ゆ〳〵ハ皆〳〵成程度ゝのおく
そつり。出ぬとゆ大丈夫の外和ハ
仮ぶりの出〳〵を出ハあゝ
が〳〵へや所の子勢をまつて居
ま〳〵〳〵ゆ今より六福神だ。

まゝあひそ〳〵なりの布袋ゝハ
ろく〳〵ゆ不の南をこ〳〵へ出
和さ〳〵そる。又江方をゝ〳〵南北
取ゝとゝ。ゆ〳〵ひ者と六人ゝ宮
出され。後ゝ〳〵こまり付ゆ奴
形をき〳〵〳〵つそゝゆ〳〵藤ゝ
なり乗の初ぎをゆそく系ぐ〳〵歩人
い〳〵ゝ〳〵ゝが世ゆ〳〵ゆ〳〵ゆつて
くぐさつてハきつい迷ゝ知ゝ
行ひとゆ花生の宝なる福ゝ
い〳〵ゝ〳〵ゝハなゝれぞ寿老観音の

本のまくら小平氏月二日
物語をえらぶ事

なつの夜
よもぎ
三歳の
稚すう乃
えるあ
さ矣
取とのり
おのの
おやのよき
くふ

旦那ハちよつと心やすくなつて。
孫弥の中間へ入なさつてより。仏法
のことハさつぱりと捨切てしまつたから。
吉田へ勤務を持ているのハ。神道
も頼み入るのだ。[illegible]たい仏法と
いふもの[illegible]
[illegible]が[illegible]して
わてゐるが。僧俗合体人がやあるまい
で面白くない。まして今ハ末世
下根の附て為に。先生がせうし
二て唯其法問又ハ神儒を云て
申くおよりがござりましよ。あいそ

がきこゆるへ。それでもいまだく工風を
して一流を建立して手まいら
ねバ。今より遠俗して布袋やと
云名をかへて装服つくらせてもござ
らねバなるまひ。どうぞそろ習せし
て今その座りぞうみ入て下され
といつもふこしあて身いる人が。
饑ゑなるぐみてのよびを申出。
夷ねもきこえぬ。またどうかんぎまお
め入るゝのなるこそまてつちよい
さかよのハ。皆の気もちゆるんして

やりあるべしとそのあるべ
びーやつそ出く如行先生のあく
せ色〳〵皆〳〵もしかしいてそうぶ式
上八子供い歌えへりへ〳〵て拙おを
へ〳〵さてがのんよう扨今布袋式
のて前〳〵の座りおらが歌述おや
ぶんのひろあられさけとちがつく
きれいい家有の姫へよふいつそ中
座りのんうて一〳〵家有の評判
を〳〵てつんようでバなのひとと宝ひ
なれバこかの〳〵先八面白ふらふ式

評判のかいそバ布袋式ゲ初ふる色〳〵
よからふさあ〳〵とせがまれて布袋
おもいそ〳〵とまでこそそろる
ぶ〳〵そうそう〳〵せんあふ伝よ
まる色評判を初めまもよとふ
ふりよ評判を吹伝へてかしてそ
芳我も〳〵と初ふうみ門口ぶ一そい
ぶいや〳〵と孤集まる色〳〵ぶきま
こちへ四遠入初きれませ〳〵扨
東西〳〵東ゥ西〳〵

子保に餐乙まる云

▲ 立張之部

拵上上吉 ㊤ 天台宗 本古在

[欠丸] 年功とい[illegible]信さいひ[illegible]つく

のハない名人 [陣太ひいき] こうもの海

太宗をおいく[illegible] 武人を書[illegible]

立引おろせ。いがあてこませ

[弾ひのき] いや〜おゝ[illegible]ハ[illegible]仏宗

の弾宗をおすき並せ〜 [まえひいき]

本太まで名をあげ[illegible]太宗を

さきへ出せ〜 [欠丸] こゝ〜此太

いづもの[illegible]宗[illegible]まり[illegible]

ゑハすこ〜[illegible]さりませぬ能〜

こゝをよくおぼえあきられませ高付日の

でのあゝハ天台宗十月の入る所

十ものあびさま[illegible]ぐりあゝら

浮判の氏元もゝ〜ますれハ[illegible]

元のきハやまぬたゝべ立役のに

をゝとやのの[illegible]の上ハ皆一谷ハ

元ゞさられ[illegible]ゝ〜ゝやみ[illegible]

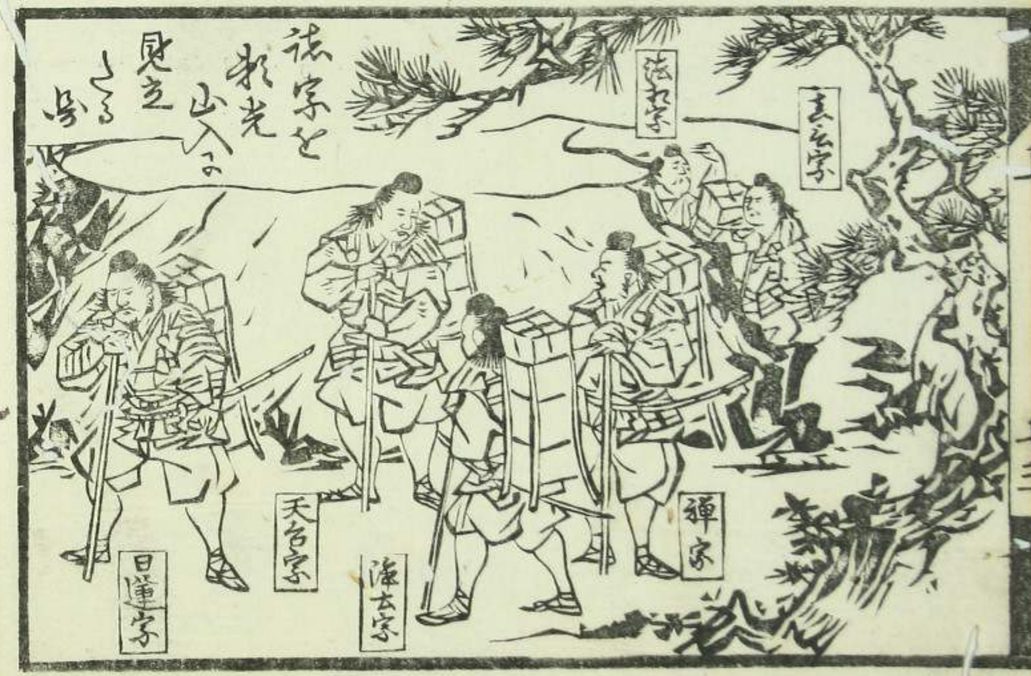
こさりませぬ [欠丸] そうのハろんハ

あひ[illegible]浮判を初めい〜 [ちのき]

てつちの法おぼ宗を[illegible]ぐられ

ありして寺宗を悉皆によあすゝむ
ざちせし【翫之】笑ハしき手抜
山路心おされ候まぎふし此の
てあさりますゆへ施法宗ハ天台
宗と申さんぐはんの如るといふれ
あひし人なかくや京ハ山の発れ
をいハあまり大坂もうけ候たま
ゑゑ一応のおりしよ斗故あ
今えつちの寺宗を悉皆ふ
いくしまし九代目人の次よたつ
人もなく誠よ春人ハ人丸々下

よ言んとかくらしき変な宮中
でくたやゑつくなき名人也
恵晃細よ更しました其の文
此家の一人主志保昌と見えて
ますなんとあの上手のぶん人ハ
おざりますまい【三升】よいハく
評判をえらく翫あい【見九】皆さま
おきすゝやされくやれされしや
一ツおて下されませサアちよんちよん
宮へつゝへしてちよんちよんのちよん
極蔵評よかりまするよ此さび有門


法華宗
真言宗
法華宗を
教光
山入な
見立
てる
日蓮宗
天台宗
浄土宗
禪宗

上
十四
尼
吉田流
一向宗

宝門ハ恵宝門ハ有亦宝門の
門とゝなわ云と和つよなゝ
あゝひ合ゆ弥仏のそゝをあく
せての実ゆ位有てたけく人の
あそゝ不実ゆのきつきひいま
の世の云人 [illegible] 此ひれハやつさよ
わゆるがなんそゝらゝたゝこりや
ヤイ此人ハどこが実ゆのきつきい
だ比云いゆ云んゝゆ三井のあん
ぢゆゝじ天台ゝ云て台法花行ゆ
の大ゆゝハ三井の智徳かゝ発

ゆの大ゆゝハゆ門の義学ゝ
教義ゆ又義仏権実離らん
なゝのゝを成とハかゝゝも立成の
位ハかゝゝて彩色せゝるゆゝ
実恵のきつきいぢ [illegible] 実恵を
うゝるハ恵眼なり左者ゝハ弥勒
ぶり又ハ釈迦仏偏なゝゝ云実恵
ゆて大者りなゝれゝゝゝ今ハ実
者位のゝくあゝゝゝされど者の
慈仏のゝりてもゝくゝ者実ゝり
荒実ぶりゝよいりて変ゝ体勢を

そりあり。籠原の冠合戦の白
矢あり。きつい俳諧天台のあい
人花のさうをよ千代満ぞと一
あよ。ゑんこうひよりよ春屋〳〵と
〳〵。藝分をあ〳〵ぶる去ハ
ないで俳家のまの老ぶ〳〵

太上上吉　藤五郎　日野氏

ひいき　さあ〳〵ちのもんて
さまざま。撥ようの名人
俳諧よりからつあい　ひいき　やイいつ
此ハ人ハ莫ぬ発へのが〳〵また。

三ケ所の知人ハ長ありそれ
よりこちのまん云家ハ莫ぬ発
へやまま〳〵附ぬ年の大詰りを
初〳〵ぬ。そ上ちのお人ハが〳〵
り人あ。ちこひろして選新集
ふ。文字のおきてがてるひとつ。
俳諧家ぬそ云仏学と云ぬ。
文際よ智ふて来〳〵る歌の獣
ぬを人へ出ぬ　ひいき　衣ある歌の
みそまり物を佐野歌ぬの
あるよ波りぬて知て知ごて〳〵

四方手長足長をふんざが[illegible]人等の
天竺徳善を[illegible]老[illegible]よりもてるが
選歌集の文字のるゝ。それ和の
歌をもろ〳〵ひで一流の立ふ
なるゝまるものろ式ハ心を深む
ふまりせて。かゝまて〳〵去四この
字の人がよもさくまれが弟子ども
文字のせんさくハいゝ。ぬ[illegible]ん
るを四方手と。今まりてぎでれ
宗旨ぐらの。底ゝ仏ゝ〳〵
てゝ手すぞよ。[illegible]是ハぎゝでぎぎ

ゝまん。後ハいさゝひの滑ぎ[illegible]。発
りませ四先評判をお吹かき
ます。如何式お人ハいまぐ[illegible]
南北をたなれぎ。お弟なれぐ
新樹を釈ぞんらん道徳呂海
なゝく芸風お前〳〵なれバ三
宗の名人と云ても大事ない。
扨又六字の名号を唱三弥陀を
たてよもり正雅二行よ雲云つを
まて〳〵法云門をもちひての荒実
ぎり数ひ方ゝ大見ひの和実

とおつだらまして、その位ハ有る
つゞく位ハぎりませぬいぜん
大原まで他力念仏の家をおろ
さんとする所へ花乃より出家の
出だらく〳〵のうみ数ハ皆〳〵
嫌〳〵ぐります。附ル花道の中和
まて。接間間投絶交ハ
ふハ受ゆ〳〵相引立ル法宗
を。ゆ〳〵〳〵まを迎てやらるを
のきゝのよさ次のまくハ後去
ゆさゝへられる者の動作をうけ

長井元義のやつ〳〵すぐるハぞ
ゆ〳〵法人がなゝぎをあが
まゝ〳〵まより吹のゆるまゝ
のつての仕らち又その内ち祝
を村うさまの大あるりの花
より大先のまゝりハたれ
郎ハ仕ハない先人〳〵
まつゝ〳〵医者のまゝして
名だかりの藝ハぞふぎゆ〳〵
これハ〳〵まるいつまいけ
人はかぎらず法宗ハぞふぎ

れば、づくもおろし、秋の
夕くれ、ばかりハあるべきなり。そもく
百万べんかけ念仏又ハ十夜
等でハ切おとし、まぢらし、
ぐりまた当世のきく役夫坊
大僧正行の名人く

上上吉

恋しき　法然禅宗　浄土宗

義経別伝ふ立文字の大立去
右風をバそづさまかおとし
へハちとむきりのるなれどよ

まとくふ年来のおりしろ。
うきよをちとくらりとくさ年り
ものふぞふせぞ昭君のよづ
よさをん倍心足性好昭定孫
の大名人く

主をひいき　おらが

る恥ずハいつ体判をまるでぶ
ごとく泥をまさ芸ず
おとりハざぶりませぬを内
此此人ハ市り彼者也へいる家
ふんでござりますゆ

ゝ[illegible]た。又にてこの書
臥褥とおがーあり。ませ。叔
父人ハ作るそもづもること
いつるなく。しく吳服屋のげ
いそ。かよ仕ものない大あこり
ヤイ父人ハ作られてより
たきゝと体判もあくゝ下ゝ交
それぬげいあゝして今よ人が
うれしゝぬぎやゃないか
あかいもかりあたきゝせぬ
ゝ。ぞのゝゝいあこと。ゝゝ

紫の大徳寺のまたかくりの大
あこうハ月よ人ぬう又吳こく
産ふてハ梁の天子ゝ死ぬどくの
うんぐんまづゝくを海芋のも
のげいと高北まて元景ゆまの
和尚ふて也あこつた。そのかう
こと祖冥利かゝの大尚りこ
きいこうやいアあこゝあたも
ものをぬうもと一下持ゝこまで
ヌそのがうげ苦しい苦
乳義をすくある悪ちゝきこが

ぶつのてうちこそろしくてきもの
一せつ矣生西へよいが今ハ花を
風月天ぴつうり地むぐりかく
ちんぷんのなぞのきようしが
るいとぶち敷すそうかゝ
ようせんのあさまを未刻
ホておるるわどの生がある
[illegible]ゆゝ丈ハ内能へこち
入てくるきるとおたゞゆ
なきを塗ているぐ千代の姫
あゝの完ようくるくるい

丈ハげいのたげをいよのだ
おざります完だうをず
伴判をぬきくあきれませ
式ゞ人中花のむくよあゝび
家拍かまくらるを山をそて
ようゆかゝくの板本しを
ないゆ北典主雲糸のめい恵
おどゞげいのかのおたしあた
をかおうぎんを育恵能源
滑稽洞又ゝうまかハ雲すひ
ちんざんゝ又をゆ沢商ゝ

人あくり出家とハいへ[illegible]
尚位帝ぬの敕云かど[illegible]
仕まのないるそのうく浄土
家と成い人ハ左丈さ[illegible]きの
ゝ位元がおくひそりゝみへつ
らいのないゆぎそうかところ
きうく菜人がうれ[illegible]ぐ寺民
ゝ知つてげい去〳〵

斉藤堂

法宗弁別記上終